

俳句集



令和四年度 第十八回

亀山市民俳句会

(小・中学生の部)

主催 亀山市・亀山俳句会



選
者

前	坂	石
田	口	井
照	緑	い
子	志	さ
先生	先生	お
		先生

亀山西小学校 五年生

特 選 夏の空きりさき走るビスタカー

特 選 いがいがの服をぬがしてくり拾い

秀 逸 水うちわぱたぱたあおぎ風の音

秀 逸 すいかわりあつちだこつちだどこにある

秀 逸 夏休み画面さえぎる母の声

秀 逸 かき氷いっぱいシロップかけちゃった

秀 逸 森の木をゆらして落とすカブトムシ

秀 逸 光あび背がちぢんでくかき氷

秀 逸 野球する夕立ちザアザアふる中で

秀 逸 夕立ちにはしやぎよろこぶ野球の子

森の中明かりが見えたホタルかな。

こうろぎがみんな集めて鳴いている
かぶと虫虫とりあみと遊んでる
バーベキュー肉をほうばる夏の空
夏の空すいかを食べてたねとばし
夏野菜おいしいトマト育てたよ
風ふいて紅葉の葉っぱ足もとに
トマト食べ酸っぱいけれどおいしいな
すいかわりあたってほしいすいかたち
夏休みプールに行くと混んでたよ
もう秋かギチギチときりぎりす
かき氷ブルーハワイの富士山だ
ピアノひく風鈴の音と合奏だ

夏の川ホタルがひかる夜空かな
はだ寒いそんなときにはきりたんぽ
秋の日に太陽に似た柿食べる
まぶしいな夏の日差しはいい笑顔
落ち葉道夕日が照らす秋色に
パチパチと小さな太陽センコ花火
かき氷いろんな色の夏の味

亀山南小学校 三年生

秀 逸 夏休みクッキーづくりかあさんと
秀 逸 夏の夜ジュース飲んでる午後8時
秀 逸 花びらがめっちゃあるのがヒマワリだ

ブラジルのダンス祭りにはぎやかだ
やきいもはながほくほくおいしそう。

亀山南小学校 四年生

特選 どんぐりだあつめてあつめネックレス

秀逸 プールの中中はとうめいいいきぶん

秀逸 夏がきた白ワンピースでくるくると

秀逸 きこえるぞ窓をあけたらきりぎりす

秋の空夕やけ空のグラデーション
雨あがり歩いていたらみずたまり

亀山南小学校 五年生

特選
秀逸
秀逸

げんかんに夜のお客やかぶとむし
どんぐりを落ち葉のしたでみつけたぞ
雨蛙雨のしずくで光ってる
夏が来た風鈴の音涼しいな
秋ごはんさんまにいわしに鮭もある
夏の夜涼しい風がふいている
上を見るひとみが色づくもみじの木
はだ寒い秋がもう来たいわし雲
かぶと虫みつをもとめて木にのぼる
かたつむりあじさいの葉でこんにちは
夕方に鳴くヒグラシに耳すませ

亀山南小学校 六年生

ふみだせば落ち葉のじゅうたん演奏会
風鈴がかぜになびいて踊り子だ

白川小学校 五年生

みみすますなつのことりのこえがする
カタツムリ雨がとつてもうれしそう

加太小学校 五年生

特 選 塩にぎり家族で食べる夏の川
特 選 めがねかけもようも見えたシジミチョウ
見上げればこんぺいとうの夏の夜

天の川空見上げれば流れ落ち

中部中学校 三年生

特選 星月夜届かぬものに手を伸ばす

特選 弟がまた連れてきたカブトムシ

秀逸 ぢりぢりと地に照りつける夏の午後

秀逸 もみじの葉ひとつひとつに個性有り

秀逸 空仰ぎこの指とまれ赤とんぼ

秀逸 散る木の葉悔いはないかと風が聞く

秀逸 自転車坂道下って夏の風

秀逸 夕焼けの空がいちばん好きな空

秀逸 十五夜にみんなで見ている同じ空

秀逸 玄関で肩乗る紅葉払いけり

秀逸 もみじ降る森通りぬけ見える空

秀 逸 夏休み曜日感覚狂いだす
秀 逸 せみの声緑深まる木々の間に
秀 逸 あじさいの梅雨もふき飛ぶ鮮やかさ
秀 逸 オレンジの日焼けの空に染まる稲
秀 逸 それぞれに色づく紅葉万華鏡
紅葉で華やかになる山の色
風にゆれ茶色い葉っぱ落ちていく
どんぐりが落ち葉の中にかくれてる
夏休み森の向こうにかぶと虫
だんだんと聞えてきたよセミの声
いつ落ちる線香花火パチパチと
稲の花粉アレルギーだからとばないで

文化祭 楽器が響く 体育館
秋の風 優しい香り やってくる
群青の空へ 染まった 秋景色
秋の夜 散歩に行きたい 気温だな
すいか割り 見ても やっても 楽しいな
梅雨の夜雨の 静けさ カエルの声
ふと 散歩とても 安らぐ せみの声
満月を見てたら お腹すいてきた
炎天下 白球 追い汗に じむ
ちぐはぐな 真っ赤な ほっぺ ソーダ水
夕涼み パンツのおじさん 立っている
とまってる 手の指先に 赤とんぼ

もみじ見て鹿肉食べる公民館
夏休み一人で花火見る自分
スイカ割りのから外れ棒折れる
大好きで離れられない掛け布団
蟬の声朝の目覚まし時計だな
秋になり服装迷う寒暖差
向日葵の輝く笑顔まぶしいな
かえり道きんもくせいよいよ香り
霧がたつ山に登れば雲の上
汗光らせ自分と向き合う夏休み
ひよどりが柿の実たちとにらみあい
夏祭りこの日の夜は眠れない

縁側で冷たいスイカかぶりつく
稲光り町全体が黄色になる
森の葉がどんだん染まる秋の色
落ちているドングリ踏んでずっこける
暑い中少しの風が気持ちいい
山の影ぽつりと一つ紅葉かな
爽やかな空を横目にマンガ読む
冬隣り伸びゆく影と身をよせて
せみの声静かにしてよ課題中
紅葉狩季節彩どるパレットだ
ミンミンと気持ちよく鳴くセミの音
風にのりにおってくるよさんま焼き

関中学校 三年生

夏の海光り輝く宝石だ
帰り道夕日に響く虫の声
暗闇に蛍の光宙を舞う

秀 逸 虫食べた窓にペツタリ雨蛙

かえり道風にふかれて散る紅葉
もう一度笑顔が輪になる盆踊り
田の上で空を飛び交う赤とんぼ
ハラハラな線香花火落ちるとき。